まなび通信

◆ 最上教育事務所研修通信
第　２　号
◆ 令和５年９月１４日
◆ 最上教育事務所指導課

チームMOGAMI　中学校社会の授業研究会から

まなび通信第１号でお知らせしたように、今年度も「授業づくり研修会『チームMOGAMI』」を実施しています。中学校社会は明倫学園　佐藤正徳先生、日新中学校　中嶋恭平先生、萩野学園　伊藤友介先生の３名がチームとして授業づくり（指導案検討会、評価規準検討会）を行ってきました。９月７日に日新中学校を会場に中嶋先生が授業を実施しましたので、様子をお伝えします。

授業の様子

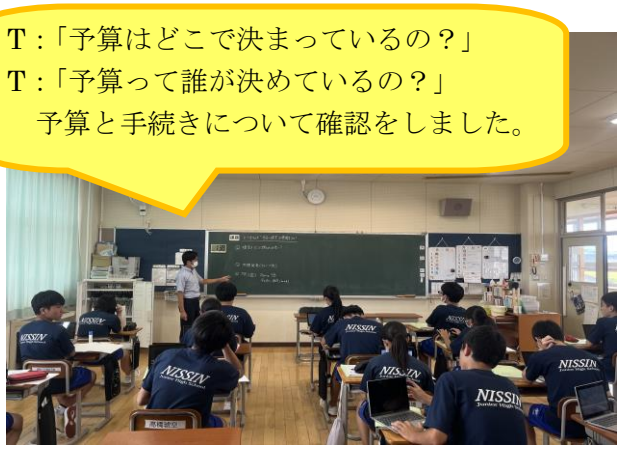
単元は「地方自治とわたしたち」です。指導案検討を複数の教員で考えられる機会とらえ、生徒一人ひとりがテーマを選択して、「個別最適な学び」や「主体的な学び」を実現するにはどのような授業スタイルが効果的なのかを考え、本単元を選びました。本時は、全５時間のうちの３時間目になります。

まず、単元のはじめに、単元全体の見通しを持たせるために、ガイダンスを行いました。

ステップ１	日本の「地方自治」「財源」などは、どのようなシステムなのか。
ステップ２	問い作り　新庄市に対する生徒の提言は本当に実現できないのか。
ステップ３	調査　実現レポート作成
ステップ４（本時）	**実現レポート作成　＋　中間発表**
ステップ５	実現レポート再調査　＋　修正
ステップ６	実現レポート完成

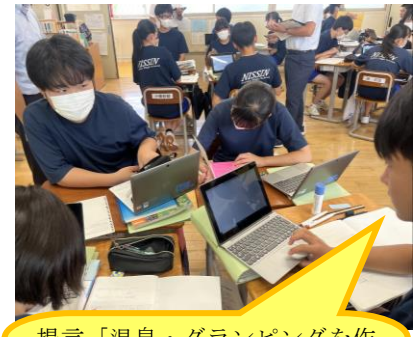
（詳細は指導案を参照ください）

T：「予算はどこで決まっているの？」
T：「予算って誰が決めているの？」
予算と手続きについて確認をしました。



生徒が作成した新庄市に対する提言は予算の都合で却下された内容がほとんどでした。そこで、生徒は前時までの学習を振り返りながら、実現できるような方法と手続きについて、レポート作成に取り掛かりました。前時では、新庄市の予算について、資料から詳しく読み解きました。何にお金は使われているのか、新庄市の収入はどのようなものか、初めて目に触れる機会となりました。中間発表では、以下の３つの視点について、考えながら仲間のレポートを評価し、アドバイスしました。

①財源はどのように生み出しているか。
②自分が考えている提言の正しい実現方法（手順）を示しているか。
③効率と公正に配慮されているか。



提言「温泉・グランピングを作るために」
S:地元の食材の調達元とはどのような契約をするのか？

提言「無電柱化」
S：確かに電柱があると災害が起こった時、身の安全が守られないので良い。しかし、予算の確保が課題では？

提言：「廃校の宿泊施設化」
S：廃校を使用するのはいい案だと思う。解体のお金もかからないので…。

授業の振り返りには、以下のような記載がありました。

- 市民の提言には、財政の確保が重要なのだと感じた。財政の不足は深刻な問題を引き起こすきっかけになる。そのため、意見を伝えるためには、財源についても考える必要があると感じた。財源の調整についてこれからも調査していきたい。
- 財源について考えることが難しかった。グループの人が自分と違う財源を提案していたので、自分もたくさんの可能性を考えたいと思った。
- 新庄市への提言を実現するためには、少し複雑な手続きが必要なことが分かった。現実味のある提言をするためには、さらに詳しく財源の確保を調べる必要があると感じた。

振り返りの言葉からも、自身の学習を今後どのように進めるか方向性が書かれていました。次時以降の学習につなげようとする意欲が読み取れます。

事後研の様子

事後研究会では、①授業で見られた生徒の良さ　②評価規準について話し合いました。特に②の評価規準については、「仲間の発表を【評価項目】に考慮して聞き、適切にアドバイスできる。」と設定しましたが、評価場面の見取りの難しさや、子どもたちの批判的思考（クリティカルシンキング）を育てる必要性が話題になりました。つまり、物事を一面から捉えるのではなく、多面的・多角的に捉えることで、対話が生まれ、思考が深まるとも話し合われました。

具体的には、生徒は評価項目を意識しすぎたため、全体の説明が疎かになってしまいました。また、アドバイスというよりも共感する内容が多くなり、B評価に達しない生徒が多くなっていました。だからこそ、評価規準のB評価の生徒の姿をさらに明確にし、B評価に到達できない生徒には、どのような手立てが必要かを考え、実際の指導を改善することで、「指導と評価の一体化」につながることを確認しました。このように、同じ教科の先生が集まって、話をする機会は貴重な場であると実感しました。

チームMOGAMIメンバーの感想

次回は１１月２１日、金山小、小学校算数です。
たくさんの参加をお待ちしております！！

○　指導案検討から様々な先生の視点で行えたことがとても良かったです。普段は自分の視点から授業をしているので、うまくいくのか不安なことがあったのですが、一緒にひとつの案を作ることが楽しいと感じました。

○　事前に検討会を重ねていく中で、自分自身の教材観や指導観を見直す良い機会となりました。検討会で話題となった方向性と自分の中のイメージにズレがあったが、そこも踏まえて良い勉強となりました。

○　複数で作った授業だからこそ、参観者が「やってみよう」「できるかも」となることに気づきました。ここまで、自分事としてとらえた授業参観はこれまでなかったと思いました。